

P-207 反復流死産患者における抗
 β 2glycoprotein I 抗体と lupus anticoagulant の意義につ
いて

名古屋市大、同第2生化^{*}、
ヤマサ(株)免疫研究室^{**}
小笠原真弓、青山朋美、佐々治紀、尾崎康彦^{*}、
梶浦詳二、松浦栄次^{**}、青木耕治、八神喜昭

【目的】抗カルジオリピン抗体 (aCL) は、血栓症、反
復流死産患者に検出されることが明らかにされて
いる。この aCL の測定には cofactor である
 β 2glycoprotein I (β 2GPI) が必要であり、 β 2GPI 依存
性 aCL が反復流死産患者のその後の妊娠の重要な
risk factor であることを報告してきた。構造変化を
起こした β 2GPI 分子上に aCL の epitope が発現され
ると推定される。一方、lupus anticoagulant (LA) は
factor X, prothrombin, もしくは β 2GPI 等の凝固制御
蛋白を認識すると考えられており、aCL と LA は各々
別の epitope を認識しているようである。今回は、
反復流死産患者における抗 β 2GPI 抗体 及び LA の出
現頻度とその相互関係、及び、それらの臨床的意
義について検討した。【方法】対象は195例の原因不
明の反復流死産患者である。LA は5倍希釈 APTT 法
で測定した。100人の健常人の mean+3SD 以上延長
している場合を陽性とした。抗 β 2GPI 抗体は、酸化
処理した microtiter plate を用いた ELISA 法によって
測定した。100人の健常人の99%信頼限界を cut off
と定めた。【成績】195例の反復流死産患者のうち22
例 (11.3 %) が LA 陽性、19例 (9.7 %) が抗 β 2GPI 抗体
陽性であった。うち7例 (3.6 %) が両者とも陽性であ
った。22例の LA 陽性例のうち9例は second trimester
における IUFD の既往があった。【結論】LA 及び抗
 β 2GPI 抗体共に反復流死産患者に有意に高頻度に認
められたが、それぞれの陽性者は必ずしも一致し
ていなかったことより、臨床的には各々の測定が
同時に必要と思われる。また、抗 β 2GPI 抗体は初期
流産により強く関係しており、LA は、second
trimester の子宮内胎児死亡と関係している可能性が
示された。

P-208 原因不明反復流産患者における妊娠
予後因子の検討 — NK 細胞サブセットの解析 —

名古屋市大
梶浦詳二、青木耕治、松本祐人、佐々治紀、
八神喜昭

【目的】母児接点である脱着膜中にはNK (natural
killer) 活性を有する CD56 細胞が非常に多く存在
し、免疫学的妊娠維持の成否に深く関与している。
今回我々は、非妊時末梢血における NK 細胞の表
面抗原の発現率の差がその後の妊娠予後の予知に
有用であるかどうかを検討した。

【方法】対象は同意の得られた原因不明反復流産
患者42例である。非妊時の末梢血中リンパ球にお
ける NK 細胞の subset を CD56, CD16 の2種類のモ
ノクローナル抗体を用いた two-color flow cyto-
metry 法にて解析し、次回妊娠帰結と各抗原の発現
率との関連について検討した。尚、全例無治療に
て妊娠経過を観察した。

【成績】①対象42例中24例の次回妊娠は正常に経
過 (NP), 18名は流産 (SA) した。NP における非妊
時の CD56 (+) 16 (-) は $6.1 \pm 4.1\%$ であり, SA の $10.17 \pm 4.2\%$ に比較して有意に低値であった。 ($p < 0.01$)
その他の subset に関しては2群間に有意な差を認
めなかった。②非妊時の CD56 (+) 細胞の割合で比
較すると NP: $8.7 \pm 4.3\%$, SA: $13.7 \pm 5.3\%$ と有意
差を認めた。 ($p < 0.01$) ③ CD56 (+) の cut off 値
を 12.5% と設定し、その後の妊娠帰結の予知能につ
いて検討すると Sensitivity: 72.4%, Specificity
: 76.9%, Positive predictive value: 87.5% の結
果を得た。

【結論】原因不明反復流産患者において、非妊時
末梢血中リンパ球における CD56 陽性細胞の占める
割合は次回妊娠帰結の予知因子としての有用であ
ることが示唆された。このことは免疫学的反復流
産の診断的パラメーターとなる可能性を秘めてい
ると考えられた。